戦後初期の三多摩社会教育における「プランゲ文庫」の意義

川　原　健太郎

はじめに

本研究は，「ゴードン・W・プランゲ文庫」(The Gordon W. Prange Collection)（以下，プランゲ文庫と表記）の雑誌コレクションの三多摩関連史料を素材として，戦後初期，1945年から1949年の三多摩社会教育におけるプランゲ文庫の意義について考察する研究である。

プランゲ文庫とは1945年から1949年に連合国軍総司令部により検閲，保管されゴードン・プランゲによりメリーランド大学に寄贈された出版物コレクションの総称である。プランゲ文庫の雑誌コレクションは多様で，学術，風俗，教育など，あらゆる分野の市販の一般誌，全国各地の青年団雑誌，労働機関誌，短歌，俳句の同人誌なども収載，所蔵タイトルは1万3000に上り，大半は日本国内には現存していないものである(1)。さまざまなジャンルの未出の史料が多数含まれている点で，プランゲ文庫は，戦後初期の社会教育活動の新たな側面を解明できると推測できる。

戦後初期，青年団の活動や文化サークルなど，学習・文化活動が盛んになった。その一つとして数えられるものが執筆活動である。人々は来るべき時代への希望について，著作によって意見を表明していた。人間が自ら筆をとり書き記したものは，活動の詳細や活動の取り組みに対する考えなど，その内容を直接知ることのできる手がかりとなりうる。

本研究は三多摩の社会教育の解明における，プランゲ文庫収載の史料の有用性に着目した研究であるが，特に以下の二点の意義を確認できると考えられる。第一の意義は，プランゲ文庫には，多くの未出史料が含まれているにも関わらず，三多摩において取り上げられることは少なかったことである。プランゲ文庫には戦後初期に関して，全国にまたがる膨大な史料が納められており，三多摩における未出のものも多数含まれている。そのため，三多摩における社会教育を新たに解明する手がかりになると予想されるが，これまで本文庫の膨大さと入手の難しさにより，三多摩の社会教育研究の中で取り上げられることは，多くはなかった(2)。第二の意義は，プランゲ文庫の価値に着目したことである。プランゲ文庫には「小さい」メディアも多く，「新日本建設」や「文化国家建設」の目標に人々が向かっていた時期に，書かれたメディアから直接社会教育の姿をみることができる可能性がある。そこで，本研究ではプランゲ文庫における三多摩の発行誌をとりあげ，戦後初期の三多摩における社会教育において，プランゲ文庫がどのような意義を持つかについて考察することを目的とする。

本研究の構成は三つから構成される。1．ではプランゲ文庫の概要についてみる。2．でプランゲ文

庫における三多摩史料の全体像の分析を行う。3. ではプランゲ文庫における三多摩で発行された雑誌類の本文をみることによって，三多摩社会教育においてプランゲ文庫の史料がどのような意義を持つのか考察を行う。

1．プランゲ文庫の概要

(1) プランゲ文庫の特徴

プランゲ文庫の雑誌コレクションは，メリーランド大学カレッジパーク校図書館との共同事業により国立国会図書館によってマイクロフィッシュ化されている。

プランゲ文庫の雑誌コレクションのマイクロフィッシュは，タイトル数 13,787，マイクロフィッシュ数 63,131，推定ページ数 610 万にものぼる。さらに，同文庫所蔵の新聞コレクションでは 18,047 タイトル，3,826 リール，推定紙面 170 万ページ，推定記事数 2,600 万を数えるものである[3]。

さらにプランゲ文庫は，「連合国軍による日本占領の時代，とくに 1945 年から 49 年にかけて発行されたすべての出版物（書籍，雑誌，新聞，パンフレットや手紙，葉書の通信物，さらには電話までが連合国軍総司令部（GHG／SCAP）によって厳しい検閲下におかれていた（中略）検閲制度の終了とともに，CCD で保管されていたこれらの検閲済み出版物は，CCD に勤めていたゴードン・プランゲ博士の尽力で，米国のメリーランド大学に寄贈された。このコレクションはプランゲ文庫と名付けられ，同大学図書館に保管されている[4]」ものである。これらはこの時期の新たな社会教育活動を明らかにする可能性を有していると推し測ることができる。

このプランゲ文庫は，占領期メディア データベース化 プロジェクト委員会（代表・山本武利）によってデータベース化（「占領期新聞・雑誌記事情報データベース[5]」）がなされており，現在では概要を把握しやすくなっている。

プランゲ文庫については，いくつかの特徴を指摘することができる。一つ目の特徴は，記事タイトルで，1 万 3000 点タイトルを超えるという，その膨大さである。

二つ目の特徴は，その収録されている内容の幅の広さである。上記の通り，プランゲ文庫には，学術，文芸，風俗，教育などあらゆる分野に関する当時の出版物が網羅されている。

さらに，三つ目の特徴として，プランゲ文庫の希少性を挙げることができる。社会学，メディア学研究者である山本武利は，「プランゲ文庫の雑誌タイトルの二割くらいしか国立国会図書館は持っていない。とくに指南されていなかった雑誌に貴重なものが多い。地方紙，小新聞には全国どこにも見られないものが多数所蔵されている[6]」と述べているように，小規模サークルなどによる個人規模による出版物が多数含まれている点で，プランゲ文庫は，戦後初期の草の根の社会活動の姿を確認することができると考えられる。

(2) プランゲ文庫における社会教育史料の収録状況

次に，プランゲ文庫における社会教育関連史料の収録状況について，先行研究から探ってみたい。

近年のプランゲ文庫については，山本武利らにより「占領期新聞・雑誌記事情報データベース」が作られており，これにより総体把握が以前より容易になったことは上記した。そこでこのデータベースからジャンルについてとりあげたい。プランゲ文庫に所蔵されている史料について，タイトル，発行年，発行箇所，雑誌タイトルや記事タイトルをデータベース化したものであり（2005年3月31日完成），この記事レコード数から全体の傾向を推し測ることができる。「占領期新聞・雑誌記事情報データベース」において入力が確認できた2006年7月31日現在の雑誌ジャンルのタイトル数及び記事レコード数は以下の通りである。

雑誌ジャンル(タイトル数)—記事レコード数

政治・法律・行政(408)//経済(600)// 社会・労働(371)—320,550, 教育(359)—47,417

芸術・言語・文学(3,163)—454,625, 歴史・地理(512)//哲学・宗教(230)—120,705

科学技術(1,724)—360,293, 書誌・図書館学(115)//一般誌(971)// 一般学術誌(19)//児童誌(508)—349,665, 小冊子(2,000)—311,678

合　計　　1,964,933

ここから，全体のうち小冊子の収録が多いことが分かる。タイトル数で2000を数えており，記事レコード数は全体の15%強の割合を示している。さらに細かい分類をみると，教育に関するものについては，独立したカテゴリになっている「教育」以外にも，各分類の中にも含まれていることがわかる。そこで，社会教育に近接する分野の出版物分類を確認するため，地域文化運動における出版物

表1　北河賢三によるプランゲ文庫の地域文化運動に関する分類一覧

分類記号	分類名	点数
ZK24	文芸誌（文芸一般，随筆）	879
ZK26	俳句誌	497
ZW05	読物誌（週刊読物誌，講談，推理小説，風俗）」	504
ZK08	音楽・舞踊・演劇・映画	255
ZK14	スポーツ	133
ZK13	趣味・娯楽（つり，狩猟，茶華道，ゲーム，切手，ペットなど）	84
ZG07	地方史・誌（地域総合誌）	463
ZZ50	地域活動，自治体，公共機関，公民館	132
ZZ51	青年団，青年会	637
ZW07	青年誌	52
ZZ65	芸術，芸能，スポーツ	156
ZZ81	文化，教養，勉強会，読書会，同好会	187
ZZ82	生活，趣味，仲介，親睦，卜占，その他	152
ZZ20	社内報，部内資料，職場・職域雑誌，勤労	509
ZZ25	労働組合，職員組合，授業員組合，教職員組合	976
ZZ26 + ZZ27	全逓信＋国鉄労組	307

（北河賢三『戦後の出発』（青木書店，2000年，pp. 19-20）および『日本占領期検閲雑誌（メリーランド大学図書館ゴードン・W・プランゲ文庫所蔵1945年～1949年（昭和20年～昭和24年））—マイクロフィッシュ版五十音順目録・分類別索引』より作成）

について述べられている，歴史研究者の北河賢三による研究における分類を参照してみたい[8]。北河は，戦後地域文化運動下における出版状況について，プランゲ文庫における雑誌コレクションの目録索引から，関連する分類を抽出し，その点数を明らかにしている。それが表1である。（便宜上ここでは，分野名の後にプランゲ文庫における分類記号を付与し，引用した）。

北河は戦後地域文化運動における出版状況において，これらのうち，地域誌・地域文化誌，青年団・青年誌および職場・組合文化誌の三者を文化運動と関連の大きい三つのグループであると分析している[9]。『日本占領期検閲雑誌（メリーランド大学図書館ゴードン・W・プランゲ文庫所蔵 1945年～1949年（昭和20年～昭和24年）—マイクロフィッシュ版 五十音順目録・分類別索引』より付与した分類番号の始め二桁ZZは「各種小冊子，機関誌，同人誌，個人誌」のものであるが，ここで挙げられている点数5923のうち，3056点の数にも上っていることがわかる。ここから，社会教育に関連したものがプランゲ文庫には多く，出版活動の中でも小冊子の占める位置が大きかったことを確認できる。

2．プランゲ文庫における三多摩史料の概要

(1) プランゲ文庫と三多摩に関する先行研究

本節では，プランゲ文庫における三多摩の史料についてみていきたい。戦後初期は，新たな時代の波が起こる中，文化に多くの人々が期待をし，学習・文化活動に取り組んだ時期である。

プランゲ文庫に収載された史料が発行された時期は，全国と同様，戦後三多摩においても戦後社会教育の出発の時期である。なおかつ，あらゆる人々によって地域に根ざした活動が展開されていた時期でもある。そのため，プランゲ文庫の研究は，三多摩にとって戦後初期における民衆のメディアから一隆盛期の実像をみるだけの意味に留まらない。

三多摩とプランゲ文庫の先行研究については，歴史研究者である新井勝紘による「『プランゲ文庫』公開と多摩地域文化運動の課題」（〈隣人〉19号，草志会，2005年）を挙げることができる。この研究は，三多摩研究におけるプランゲ文庫の重要性に言及した，礎石となるものである。新井は，三多摩の戦後初期の解明におけるプランゲ文庫の重要度について述べており，さまざまな資料の分析の積み重ねで戦後三多摩の地域文化運動についての総体把握ができる可能性について言及している[10]。

一方で，新井研究において指摘されているように，プランゲ文庫そのものの入手が困難であったということも影響しているように，プランゲ文庫における文献の内容分析については，今後の課題となっていた。

(2) プランゲ文庫の三多摩における収録地域

本項においては，前述の「占領期新聞・雑誌記事情報データベース」を利用し，そこから三多摩で発行されていた雑誌のデータを抽出し，これらからプランゲ文庫における三多摩の史料の概要について検証してみたい。戦後初期は，三多摩でも多数の雑誌が発行されており，プランゲ文庫に収められ

ていない出版物も少なくなく，あくまでもプランゲ文庫はそれらの多くの出版物の一部である事は留意しておかねばならないことについてはここで指摘しておきたい。

三多摩の各地域別の収録数を確認すると，記事のタイトル数は南多摩4160，西多摩397，北多摩10620となっており，雑誌数は，南多摩21誌，西多摩6誌，北多摩159誌であり北多摩が圧倒的に多い。それは，各自治体別の記事タイトル数にも現れており，北多摩ではほぼ全域が網羅されている。点数が多い自治体をみてみると，南多摩郡の八王子市（2747），西多摩郡の青梅市（382），北多摩郡の府中町（656）など，郡役所の置かれていた地域のものが多いのも特徴といえよう。

なお，三多摩の出版物のタイトルを確認すると，北多摩郡の出版物は，会社組織によるものが多いことがわかり，出版物の点数の多さは，会社の数が多いこととの連関があることを推し測ることができる。

(3) 雑誌のジャンル分析

「占領期新聞・雑誌記事情報データベース」を利用し，プランゲ文庫雑誌コレクション収載のうち，発行が三多摩地域のものを抽出すると，発行が三多摩地域のものは135点あった。三多摩においても「各種小冊子，機関誌，同人誌，個人誌」の数は48点を数えており，おおよそ1/3が小冊子であることが特筆すべき点であろう。

三多摩の雑誌の収録数を，内容別にまとめたものが（表2）である。それをみると，社会・労働のカテゴリが14点，教育のカテゴリが21となっており，この2ジャンルが小冊子のうち27%を占めていることがわかる。教育の中では「教育／教育・小・中・高等学校・青年学校・保護施設」が15と全体の1/3となっており，小冊子の中でも高い割合を占めている。

表2　三多摩の小冊子の雑誌ジャンル毎収録数

分類	雑誌ジャンル	点数
ZZ20	社会・労働／社内報・部内資料・職場・職域雑誌・勤労（小冊子）	1
ZZ25	社会・労働／労働組合・職員組合・従業員組合・教職員組合（小冊子）	9
ZZ26	社会・労働／全逓新（小冊子）	4
ZZ31	戦争／復員・旧軍（小冊子）	1
ZZ40	教育／教育・小・中・高等学校・青年学校・保護施設（小冊子）	15
ZZ42	教育／学習・受験等・語学（小冊子）	4
ZZ45	教育／大学・研究機関・研究会・専門学校・訓練校（小冊子）	2
ZZ51	歴史・地理／青年団・青年会（小冊子）	1
ZZ55	哲学・宗教／宗教・論理・人生論（小冊子）	3
ZZ61	科学技術／結核等療養所（小冊子）	7
ZZ65	芸術・言語・文学／芸術・芸能・スポーツ（小冊子）	1

「占領期新聞・雑誌記事情報データベース」より作成
http://m20thdb.jp/login　2009年5月15日アクセス

3．プランゲ文庫における三多摩の史料

(1) 1945～1949年における三多摩の社会教育史料

本節では，プランゲ文庫雑誌コレクションの三多摩発行のもの135点の中から，48点を占める「各種小冊子，機関誌，同人誌，個人誌」に注目し，三多摩の社会教育におけるプランゲ文庫の意義について考察する。

戦後三多摩は，戦後の公民館活動やいわゆる三多摩テーゼ，青年団運動や女性教育など，活発に社会教育活動が展開された地域の一つである。戦後の出発点にあたる1945年から1949年のプランゲ文庫の時期における三多摩の社会教育史料についても，多数を数える。

その一つには，東京都立多摩社会教育会館による『戦後三多摩における社会教育のあゆみ』1～9集（1988年～1997年）がある。この『戦後三多摩における社会教育のあゆみ』は戦後三多摩の各地における社会教育活動をまとめた総合的研究であり，戦後三多摩の社会教育について，1945年から1960年代の三多摩全域の事例を取り扱っており，1945年からの戦後の出発期の研究についても，婦人会や青年会などの活動，社会教育行政などの多数の活動記録が収められている。〈三多摩の社会教育〉（東京都立多摩社会教育会館編集）における，「戦後三多摩社会教育史関係資料・文献等目録」（1988年3月第69・70合併号のVol. 1，1889年3月第72号のVol. 2）も挙げることができる。

(2) プランゲ文庫における三多摩の小冊子一覧

ここでは，プランゲ文庫における三多摩発行の小冊子の一覧を取り上げる。（表3）は「占領期新聞・雑誌記事情報データベース」を利用し，プランゲ文庫収載のうち，発行が三多摩地域になったものから，「小冊子」カテゴリのものを一覧表にしたものである。

表3　三多摩発行のプランゲ文庫収録の小冊子一覧

雑誌名	発行地	地域	発行者	分類	雑誌ジャンル	請求番号
群雀	浅川村	南	全逓従南多摩支部文化部	ZZ26	社会・労働／全逓新（小冊子）	M643
多摩	八王子市	南	東京都立第四高等女学校校友会	ZZ40	教育／教育・小・中・高等学校・青年学校・保護施設（小冊子）	T141
草矢	町田町	南	東京都立町田高等学校文化部内くさや編集室	ZZ40	教育／教育・小・中・高等学校・青年学校・保護施設（小冊子）	K2052
NORIN	青梅町	西	東京都立農林学校校友会	ZZ40	教育／教育・小・中・高等学校・青年学校・保護施設（小冊子）	N709
流域	福生町	西	西教組文化部文学サークル	ZZ25	社会・労働／労働組合・職員組合・従業員組合・教職員組合（小冊子）	R588
働く人	立川市	北	立川飛行機株式会社労働組合	ZZ25	社会・労働／労働組合・職員組合・従業員組合・教職員組合（小冊子）	H277

JAMA	立川市	北	立川飛行機JAMA工場労働組合	ZZ25	社会・労働／労働組合・職員組合・従業員組合・教職員組合（小冊子）	J6
流	立川市	北	全逓北多摩西支部文化部	ZZ26	社会·労働／全逓新（小冊子）	N31
校友	立川市	北	立川市立立川第一中学校校友会	ZZ40	教育／教育・小・中・高等学校・青年学校・保護施設（小冊子）	K1864
玲瓏	立川市	北	田中与四郎	ZZ40	教育／教育・小・中・高等学校・青年学校・保護施設（小冊子）	R137
VITA	立川市	北	多摩生物研究連合会	ZZ40	教育／教育・小・中・高等学校・青年学校・保護施設（小冊子）	V10
団報	立川市	北	曙青第二分団文化部	ZZ51	歴史・地理／青年団・青年会（小冊子）	D78
月輪	立川市	北	青年教養会	ZZ55	哲学・宗教／宗教・論理・人生論（小冊子）	G288
十期	武蔵野町	北	第十期生会	ZZ31	戦争／復員·旧軍（小冊子）	J102
三鷹	武蔵野町	北	慶応義塾附属医学専門部雑誌刊行会	ZZ45	教育／大学・研究機関・研究会・専門学校・訓練校（小冊子）	M445
新人シナリオ作家協会会報	武蔵野町	北	新人シナリオ作家協会	ZZ65	芸術・言語・文学／芸術・芸能・スポーツ	S1391
あけぼの＝AKEBONO	武蔵野市	北	上山碩	ZZ40	教育／教育・小・中・高等学校・青年学校・保護施設（小冊子）	A128
地人	武蔵野市	北	法政第一高等学校々友会考古学研究会	ZZ40	教育／教育・小・中・高等学校・青年学校・保護施設（小冊子）	C60.1
むさし	武蔵野市	北	東京都立武蔵女史高等学校校友会編集班	ZZ40	教育／教育・小・中・高等学校・青年学校・保護施設（小冊子）	M653
紫紅	武蔵野市	北	武蔵野女子学院高等女学校	ZZ40	教育／教育・小・中・高等学校・青年学校・保護施設（小冊子）	S1194
スリーホークス	武蔵野市	北	慶応医専編集部	ZZ45	教育／大学・研究機関・研究会・専門学校・訓練校（小冊子）	S2725
会報	武蔵野市	北	宗教法人釈迦牟尼会	ZZ55	哲学・宗教／宗教・論理・人生論（小冊子）	K169
新制数学と物象	三鷹町	北	東涯出版社	ZZ42	教育／学習・受験等・語学小冊子）	S1655
数学研究＝The Sugaku Kenkyu	三鷹町	北	東涯出版社	ZZ42	教育／学習・受験等・語学小冊子）	S2566
数学の友　2	三鷹町	北	数学の友社	ZZ42	教育／学習・受験等・語学小冊子）	S2571
数学の友	三鷹町	北	数学の友社	ZZ42	教育／学習・受験等・語学小冊子）	S2573
草原＝LA SOGEN	府中町	北	文学サークル草原会	ZZ20	社会・労働／社内報・部内資料・職場・職域雑誌・勤労（小冊子）	S2445
篝火	府中町	北	ビクターオート所沢工場労組文化	ZZ25	社会・労働／労働組合・職員組合・従業員組合・教職員組合（小冊子）	K102

労友	府中町	北	ヴィクターオート株式会社労働組合総務部	ZZ25	社会・労働／労働組合・職員組合・従業員組合・教職員組合（小冊子）	R476
VA	府中町	北	ビクターオート労組文化部文芸部	ZZ25	社会・労働／労働組合・職員組合・従業員組合・教職員組合（小冊子）	V1
緑風	府中町	北	東京都立府中農業学校学友会	ZZ40	教育／教育・小・中・高等学校・青年学校・保護施設（小冊子）	R533
あしなみ	多摩村（多磨村か？）	北	府中基地労働組合文化部	ZZ25	社会・労働／労働組合・職員組合・従業員組合・教職員組合（小冊子）	A427
ながれ	拝島村	北	北多摩郡西支部文化部	ZZ26	社会・労働／全逓新（小冊子）	N31
現象	昭和町	北	昭和飛行機昭和工場労働組合教育宣伝部文学サークル	ZZ25	社会・労働／労働組合・職員組合・従業員組合・教職員組合（小冊子）	G277
道標	昭和町	北	シマヤ昭和基地従業員組合文化部	ZZ25	社会・労働／労働組合・職員組合・従業員組合・教職員組合（小冊子）	M264
ながれ	昭和町	北	北多摩西支部文化部	ZZ26	社会・労働／全逓新（小冊子）	N31
楽山荘だより＝ Rakusanso Circula Letter	小平町	北	楽山荘	ZZ55	哲学・宗教／宗教・論理・人生論（小冊子）	R56
狭霧句報	東村山町	北	白十字会村山葵春園狭霧会句報編集室	ZZ61	科学技術／結核等療養所（小冊子）	S15
紫苑	谷保村	北	桐朋学園文化部	ZZ40	教育／教育・小・中・高等学校・青年学校・保護施設（小冊子）	S1777
桐朋	谷保村	北	桐朋第一中学校	ZZ40	教育／教育・小・中・高等学校・青年学校・保護施設（小冊子）	T462
紫紅	保谷町	北	武蔵野女子学院高等女学校	ZZ40	教育／教育・小・中・高等学校・青年学校・保護施設（小冊子）	S1194
群燕＝ GUNEN	清瀬村	北	山岸宏	ZZ61	科学技術／結核等療養所（小冊子）	G413
あけぼの	清瀬村	北	上宮療園	ZZ61	科学技術／結核等療養所（小冊子）	A126
更生文化	清瀬村	北	日患東京支部更生文化部	ZZ61	科学技術／結核等療養所（小冊子）	K1744
ニ羊	清瀬村	北	■立東京療養所　YMCA	ZZ61	科学技術／結核等療養所（小冊子）	K1850.1
松涛	清瀬村	北	松涛会	ZZ61	科学技術／結核等療養所（小冊子）	M140
療養時報	清瀬村	北	国立東京療養所	ZZ61	科学技術／結核等療養所（小冊子）	R561
武蔵高女たより	武蔵野町	北	東京都立武蔵高等女学校	ZZ40	教育／教育・小・中・高等学校・青年学校・保護施設（小冊子）	M655

「占領期新聞・雑誌記事情報データベース」より作成
http://m20thdb.jp/login　2009 年 5 月 13 日参照

これらの小冊子48点を発行主体別にみていくと，青年団が1点，労働組合関連が14点，学校関連のものが17点，療養所関連が7点，その他で9点の出版物があることを確認できる。社会教育の中心的活動団体の一つであった青年団による冊子は，立川市曙町青年団第二分団文化部編〈団報〉の一つしかない一方で，労働組合のサークル活動や，学校の校友会や部活動の冊子が多いことが目を引く。これらは前項でみた先行研究には含まれていないもので，当時の三多摩における社会教育の新たな側面を明らかにできる可能性がある。

(3) 小冊子の記述

最も数の多い小冊子のカテゴリは17点の「学校」である。ここには，学校の校友会や部活動によって発行されたものが含まれている。次に多くを占めているのが労働組合の関係の出版物で，14点を数える。それらのうち，教員組合のサークルの文芸誌の一つを分析の素材としてとりあげる。それが福生町（現福生市）の西教組文化部文学サークルによる，〈流域〉（1948年12月）である。手書きを印刷したもので，50ページ強の分量，奥付には定価が60円との記載がある。目次によると主な内容は，評論，随筆，小説，短歌・俳句，詩などである。ここから，本誌は文学サークルの作品発表の場であったと推し測ることができる。

編集後記では，このグループの活動への姿勢について言及している。そこでは，「閉鎖された環境，或いは炉辺談義にいくら自由に語つたとて自由本来の偉力は発揮出来ない。しかし我々は語るに事柄，語る方法を知らない。お互いに何も言えない人間なら磨きあつて，言えるようになろうではないか！ 其の場所を提供したり念願が此の会誕生の主な要素である。

上手下手など從つて問題ではなくなる事は勿論である。お互い，自分をさらけ出して自分を知り，他を知り，封建の残滓に凝り固まつている我々の内部からそれ等を摘出し合わなくてはならない。それは日本の民主化の先祖に立つべき教職の何よりも重大な義務である[12]」と叙述してある。ここから言論の自由への意識，その達成を目的として会を設立したことなどの主張をみることができる。

〈流域〉には「おとなの綴り方」（梅野実）と題された作品も収録されている。この作品は，主人公である教師が，家庭の事情で弁当を持ってくることができない児童に弁当を与えたが，結果として児童がはやしたてられてしまい，教師が苦悩する，という内容である。主人公の名前が作者名と異なっていることもあり，実話であるかは不明であるが，学校を舞台にした教育に関する教員の葛藤を描いた作品であり，筆者の生活での葛藤を記録したものとして意義をみいだすことができる。

しかし，小冊子は，執筆時の記録を直接伝えるものである反面，個人の変化や成長をみるためには，その後の経年変化などや社会情勢も踏まえて検討する必要がある。

(4) 新出史料による可能性

新出史料の三多摩社会教育における意義を考察する一例として，ここでは青梅町の奥多摩文化会によって発行された雑誌〈多摩川〉1巻1号（奥多摩文化会編，1946年3月），および〈多摩川〉4月

号（奥多摩文化会編，1946年4月）を素材にとりあげたい。西多摩郡の中心の一つである青梅であるが，戦後初期における文化団体の状況や活動内容については従来明らかにされていなかったものである。

『青梅市教育史』には，次の記述がみられる。「戦後の文化団体について，始めて記録に現れてくるのは，昭和二十四年の『青梅町のしおり』の記述であろう。それには『この外，文化団体の主なるものは青梅町郷土史編纂会，奥多摩文化会等，町の講演を得て夫々の文化活動を行って居り……』とあって，たった二つの団体が書き上げられているだけで，しかも，『奥多摩文化会』なる団体が，どのようなものであり，また，どのような活動をしていたのか，不明である。[13]」

奥多摩文化会の活動方針や活動内容は，〈多摩川〉1巻1号に掲載されている。「創刊について」と題された巻頭言からこの会の成立状況や活動内容を知ることができる。

「戦時中郷土文化向上の目的で有志の者集り，青梅文學會を結成し，演劇，展覧會を催し，機関誌青梅文學発刊の運びとなつたが，當局より戦時下考慮されたしの命あり，又會員諸氏の出陣等の爲一時解散となつた。（中略）従来日本の文化はあまりにも都市集中を示してきた。新しき文化の創造にあたつては，地方文化の興隆をはからねばならぬ。そしてそれを世界水準にまで高めねばならない。[14]」

この文からは，この会の活動が戦前から継続していたものであったことや，地方文化の興隆を目指していたことが読み取れる。このことは，「編集後記」においても収録された作品について，「總て郷土に根を下した作品であるのは喜ばしい限りである[15]」と評されていることからもわかる。「奥多摩文化會會則[16]」からは，奥多摩文化会が，会誌活動，演劇，講演，絵画に携わっていた可能性があることを推し測ることができる。

さらに，〈多摩川〉4月号の「幹事決定」の記事では，第2回総会で決まった幹事として，庶務，貸本，会計，会誌，短歌，演劇，絵画，英語，音楽に各1名，地域連絡員に7名が決定したと書かれており[17]，第1号時の活動よりも，内容に広がりをみせていたことがわかった。

絵画部については，日展鑑賞会を3月10日（第2日曜日）午前8時に開催するという募集記事や[18]，同じく3月10日午後1時半に青梅町本町会館にて，第1回総会を開催する募集記事などが掲載されており，活動内容の一端を伺うことができる。さらに，4月号には貸本部の開設の告知[19]，音楽部では「郷土民謡募集」の募集記事などが掲載されており[20]，広い分野にわたり文化活動へ携わっていたことを伺える。

〈多摩川〉は，奥多摩文化会の会誌活動の一環であると思われるが，他にもプランゲ文庫には，〈児童文化〉という奥多摩文化会によって発行された雑誌が収録されている。1946年6月発行。学校教員などによる，「教育者諸賢の機関誌」（〈児童文化〉1号編集後記）という位置づけのようである。〈児童文化〉創刊号の内容は小学校教員による教育評論や，児童の作文などになっている。奥多摩文化会は多様な分野で，地域の社会教育活動に関わりを持っていたものとみることができる。

まとめ

本研究は，「ゴードン・W・プランゲ文庫」の三多摩発行史料を素材として，戦後初期の三多摩社会教育における，プランゲ文庫の意義について考察を行った。

1．プランゲ文庫について，その概要と収録誌の分野について確認した。そこでは，先行研究を中心にプランゲ文庫の特徴について，分野ごとの資料点数などについて検討した。プランゲ文庫には社会教育に関わる分野の史料も多く含まれることがわかった。

2．においては，プランゲ文庫と三多摩に関する概要について先行研究を確認し，さらにプランゲ文庫と三多摩について地域ごとの集計を明らかにした。プランゲ文庫はその価値こそ注目されているが，三多摩の社会教育という視点からの分析は依然課題となっていることがわかった。プランゲ文庫に収録された三多摩の史料については，小冊子が多く含まれており，そのうち「教育」「労働」ジャンルの点数が多いことから，特にそれらに関連する研究が期待できることを確認した。

3．プランゲ文庫の史料から，三多摩の社会教育におけるプランゲ文庫の意義について考察した。小冊子のタイトル一覧を作成し収録数の多い分野について本文の分析を含めながら検討した。プランゲ文庫には，小冊子で執筆者の活動に対する考えなどを読み取ることができるものや，従来の研究で活動実態が明らかにされていないものが含まれていることがわかった。特に，これまでの中では活動がわからないとされていた，青梅の事例が含まれていることなどはそれを示すものといえる。

以上のことから，プランゲ文庫には，戦後初期における三多摩の社会教育の新たな側面をみる事ができるという意義が相当に存在することが明らかになった。しかし，膨大なプランゲ文庫の資料量のため，本研究ではあくまでもその一部をみるに留まってしまったという課題がある。今後の課題としたい。さらに本研究においては紙幅の関係もあり言及できなかったが，他地域との比較による三多摩活動の独自性の明示，経年変化による執筆内容の変化などもこれからの研究課題としたい。

注(1)　山本武利「占領期雑誌目録データベースの作成―プランゲ文庫の活用を目ざして」（20世紀メディア研究所編〈Intelligence〉1巻，20世紀メディア研究所，2002年03月，p. 6。

(2)　新井勝紘「『プランゲ文庫』公開と多摩地域文化運動の課題」（〈隣人〉19号，草志会，2005年）。

(3)　「占領期新聞・雑誌記事データベース　概要」http://m20thdb.jp/public/gaiyou　2009年5月13日アクセス。

(4)　山本武利「占領期雑誌目次データベースの作成―プランゲ文庫の活用を目ざして」前掲，p. 6。

(5)　「占領期新聞・雑誌記事情報データベース」http:// m20thdb.jp/login　2009年5月13日アクセス

(6)　山本武利「占領下のメディア検閲とプランゲ文庫」（〈文学〉第4巻第5号，岩波書店，2003年9-10月），p. 8。

(7)　「占領期新聞・雑誌記事データベース　概要」，http://m20thdb.jp/public/gaiyou　2009年5月13日アクセス

(8)　北川賢三『戦後の出発』青木書店，2000年，pp. 18-24。

(9)　北川賢三『戦後の出発』前掲，p. 20。

(10)　新井勝紘「『プランゲ文庫』公開と多摩地域文化運動の課題」前掲，p. 48。

(11)　本項において引用するプランゲ文庫史料はメリーランド大学カレッジパーク校図書館との共同事業により国立国会図書館によってマイクロ化されたものである。

⑿ 「編集後記」（〈流域〉西教組文化部文学サークル），1948年12月。

⒀ 青梅市教育史編さん会議編『青梅市教育史』青梅市教育委員会，1997年，pp. 940-941。なお，同書には，「しかし，現在の青梅市美術協会の清水保夫会長によれば，奥多摩文化会は，昭和二十一年に発足し，美術協会結成以前は，この会に所属していて，「奥多摩美術展」を五回ほど開催した，という。美術協会の前身であったのか，いくつかの団体が加わって奥多摩文化会を構成していたのかは不明である。」（『青梅市教育史』，p.941）の記述もされているが，詳細不明の活動であった。

⒁ 「創刊について」（〈多摩川〉1巻1号（奥多摩文化会編，1946年3月），p. 1。

⒂ 「編輯後記」（〈多摩川〉1巻1号，前掲），p. 18。

⒃ 「奥多摩文化會會則」（〈多摩川〉1巻1号，前掲），p. 17。

⒄ 〈多摩川〉4月号，1946年4月，p. 29。

⒅ 〈多摩川〉1巻1号，前掲，p. 3。日展鑑賞会の記事として，3月10日午前8時，青梅駅，最後尾車に乗車，弁当，多摩川（おそらくこの雑誌と推測される）持参のこと，と告知記事が掲載されている。

⒆ 〈多摩川〉4月号，前掲，p. 20。貸本部開設について，「四月十五日より青梅町役場前に開きます。修養に慰安に御利用下さい。會員は保証金不要」の案内記事が掲載されている。

⒇ 〈多摩川〉4月号，前掲，p. 29。